

玉川上水・野の花だより No. 36

ツルボ *Barnardia japonica*

中央大学研究開発機構・機構客員教授 東京大学名誉教授

石川 幹子

2026年 9月8日

玉川上水・国指定史跡の第三号橋から笹塚橋の右岸に、ツルボ（蔓穂）が咲き始めました。盛夏を過ぎ、9月にはいると、夏草の中から直立した30cm程の茎を出し、先端に穂のような総状花序をだして薄紫の花をつけます。

地中に球根があり、葉は春に出ますが、花をつけず夏には枯れてしまいます。この間、光合成を行い、初秋になると再び葉を伸ばし、美しい花をたくさんつける不思議な野草です。

9月7日は、終日、台風による大雨でしたが、雨のなかで、煙ったように咲く花は、ひときわ風情があります。いにしえ人も、秋風が吹くころ、夏の思い出を偲びながら、この花をみていたのかもしれません。

ツルボという名前の由来は、不明ですが、別名を「参内傘」（サンダイカサ）と言います。花の形が、公家が参内する時に、御供のものが、差しかけた傘のたたんだ形に似ているためといわれています。

第三号橋から笹塚橋までは、約180mありますが、右岸側にツルボの群落が点々と続いています。是非、ご覧になってください。これは、東京都水道局が、適切に「下草刈り」を続けてこられた賜物です。往時の玉川上水の「素掘り開渠」の姿を今日に伝えるもので、未来へつないでいきたい風景です。



ツルボ 第三号橋～笹塚橋（右岸）

2026年9月7日